

の議院内閣制とは異なり、本来は、与党、野党はない。

首長と議会は、車の両輪ではない。時には、議会がブレーキになり首長を止め、ハンドルとなって方向を変えるのが議会の役割である。

そして、予算案の審査も議会と首長がオープンな場で議論し、議会としての総意で首長提案の予算案を修正することが大事である。』という。



前我孫子市長 福嶋浩彦氏

折しも、当町の3月議会では、ミニ国会を思わせるような与党と野党に別れる構図が生まれてしまったようであった。

いわゆる与党側が、予算原案絶対という思考停止状態に陥り、いわゆる野党側もお互いにしつかりした議論の場を作る努力にも欠けていたと反省もしている。(あえて与党、野党とわけるとすると。)

福嶋氏は、市長時代、予算編成過程をオープンにし、パブリックコメント等を通し、予算編成に市民参加の道を開いている。また、わかりにくい「聖域」にこそ市民参加が必要であると、補助金を全て廃止にして、公募と市民審査の制度を導入した。職員採用にあたっては、民間から必ず面接等に試験委員が参加している。

そして、その最終的な目的は、

市民自治であり、市民自らが地域の理念や方向性を決め、市民自らの手で地域を創ることが大切であるという。

しかし、まずは我々議員が、冷静に客観的にしつかりと議論を交わし、予算案を修正する勇気を持つ意識改革が求められているのではないだろうか。



全国から200人を越す議会関係者が集まった